UNIT37　Non-prominence on final vague expressions

曖昧な表現は、正確さや明確さを必要としない会話の中でよく使われる。
そしてこれらはほとんどの場合目立たせる表現の次にきて、目立たせずに読まれる。

A.　・すでに話に出てきた事柄に言及するとき、"the stuff"(不可算名詞に対して)、"the place(s)"、"the thing(s)"(可算名詞に対して)を使うことができる。そして、その多くの場合が批判を意味する。
　・また、より大きな事柄の中の一例について述べる場合は"sort of"と合わせて使う。そのとき"sort of"の前には、(all)this,that,these,those をつけることが多い。
　・"and stuff" "and things""and place"はより詳細な記述無しに、一般的な例と似たものがほかにもあることを示す時に使われる。
　・"and that"は具体的な説明なしに、他のことも含めたいときに使われる。

B　・" or something/ anything"(etc.)は曖昧かつ間接的な表現に使われる。
　・似たような用法で"or something/anything(etc) like that"とも言うことができる。

C　・"or/and+whatever/whenever/wherever/whoever"は文章をより曖昧かつ略式化するために使われる。

D　・"or so" は時間や数字の表現を曖昧にするのに使われる。

Unit38　Prominence in reflexive and personal pronouns

A.　再帰代名詞が動詞や前置詞の後についたり、主語(主部)を表したりするとき、たいてい目立たせない。
しかし、このような再帰代名詞は対比に関して目立たせることができる。

B.　私達が強調のために再帰代名詞を使うとき、たいてい目立たせる。
　・それを強調する名詞か代名詞の後に
　・主語を強調する節の終わりで
　・誰かが一人で、助けなしで何かをした、あるいはこれからすると強調するために
しかし、文の他のどこかで対比を強調したいなら、このような再帰代名詞を目立たせないようにすることができる。

C.　人称代名詞はたいてい目立たせない。
しかし、他人と一人または人々の対比をするために、それらを目立たせることができる。
＊this や that のつくいくつかの句を除いて、代名詞はめったに強調されない。